

(様式1)

令和7年度 学校評価結果報告書(中学校用)

(1) 学校教育目標	真理と学問を尊重し、心身ともに健康で、国際社会の進展に寄与すべき、積極有為な人材を育成する。 本目標を達成するため、能力と個性に応じた教育活動を通して、次の諸項の実現に力を置く。 ア 知性の深化 イ 徳性の涵養 ウ 個性の確立 エ 自律心の養成 オ 心身の鍛錬
(2) 現状と課題	現状：県内唯一の県立中高一貫校として、中高一貫校ならではの特色ある教育活動の実践を継続している。 課題：生徒指導上の問題（不登校、SNSに関わる問題等）への対応、学力差に応じた個別の学習支援、教育課程編成に伴う人員・時間・場所（教室）の物理的な環境整備等の課題に苦慮している。
(3) 重点目標	1 併設型中高一貫教育校の特色を活かす系統的な教育活動の展開 2 良質な授業の展開と生徒の適性に応じた進路実現 3 多様な生徒への対応 4 理数教育及び語学教育の充実と探究型学習の推進 5 快適な職場環境の醸成
(4) 結果の公表	三本木高等学校と同様に、各学年の「学年だより」またホームページにおいて広く公開している。

学校名	青森県立三本木高等学校附属中学校
自己評価実施日	令和8年2月16日(月)
学校関係者評価実施日	令和8年2月17日(火)
(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成	
地域の多彩な有識者で構成される学校評議員会を学校関係者評価委員会として位置付けている。 学校評議員5名 (地域企業代表1名、大学関係者1名、保護者代表1名、後援会代表1名、学校協力者1名)	

番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	学校関係者評価	
					(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	①高校と附属中学校間、学年や分掌及び教科間の連携と協力の強化 ②中高6年間を見通した教育計画及び教育活動の充実・発展	①中高教員の授業への相互乗り入れを継続する。 ①中高での部活動の連携、中体連終了後の高校部活動への円滑な移行を行う。 ①中高合同行事（心に関する講演会、芸術教室、進路講演会等）を実施する。 ②先取り学習（数学・英語）と中高6年間を見通した教育課程を実施する。 ②修学旅行での大学見学（中学2年）を実施する。 ②ホームページの活用や学校説明会、授業公開等による地域への広報活動を行う。	①中高教員の授業への相互乗り入れを継続できた。 ①連携を深め、中体連終了後に円滑に高校の部活動に移行できるように継続して取り組むことができたが、中学校の部活動の地域展開を進めていく上で、高校との連携のあり方が課題である。 ①中高合同行事は予定通り実施できた。 ②附属中学校での先取り学習や少人数指導（数学・英語）等、中高6年間を見通した教育課程を継続して実施できた。 ②修学旅行において、東京大学、千葉工業大学への大学見学を実施することができた。 ②職員による小学校訪問を実施し、附属中の教育活動についての情報提供を行うとともに、本校HPを活用して情報を公開し、広報活動を行ったが、情報の更新を定期的に行うことが不十分であった。	B	・附属中に進学したいと思う児童、保護者が増えるように、特色ある取組（他の学校にはない）について今以上に情報発信してほしい。 ・部活動の地域移行など部活動については高校とは違う面もあると思うが、高校での部活動にもつながるようにしてほしい。	・中高一貫校としての教育活動を実践している一方で、特色ある取組については内容、実施時期、系統性等について課題が残る。次年度も、中高一貫教育課程委員会やGCS事務局を核として、学期ごとの見直し・改善を図りながら、本校の目指す生徒像に鑑みながら、充実した教育活動を展開していきたい。
2	①「授業第一主義」と家庭学習を促進する指導の工夫改善 ②ICTを活用した授業改善を通して新しい時代に求められる資質能力の育成	①深い学びを実現する学習指導の在り方の研究（学びをつなげる学習活動）に取り組む。 ①諸学力テストを活用する。	①②「深い学びを実現する学習指導（学びをつなげる学習指導）」を全教職員で意識し、日々の授業実践を積み重ねた。 ①校内研修では、相互参観授業を行いながら授業改善に努め、英語科においては研究授業を行い、外部から招いた助言者からの指導を受けた。 ①定期テスト前、基礎基本の確認を目的とした学習会（学習カウンセリング）を希望者に対し実施し、主体的に学習に取り組めるように支援を行うことができた。生徒の実態やニーズに応じた講座を開講するようにしながら、生徒の主体性を高めていく必要がある。 ①諸学力テストを計画的に実施できたが、テスト後の振り返りを普段の授業や次のテストへの活用の仕方に課題がある。 ①全国学力・学習状況調査（文部科学省）3年生、学力推移調査（ベネッセ）全学年（年3回）、学力診断問題（正進社 県版 年2回）全学年	A	・附属中の特色である標準授業数よりも多い授業数の確保という点を生かし、丁寧できめ細かい学習指導を継続してほしい。 ・保護者からの要望で一番多いものが「学力の向上」であるので、基礎学力を一人一人に身につけさせて高校へと進学させてほしい。	・「深い学び」に結びつく実践を意識し、今後も教師の授業力向上に努め、学力向上につなげたい。また一人一人の状況に応じた学習支援となるよう、個別に支援する場の設定や家庭学習の仕方への助言等をしていきたい。
3	①きめ細かな生徒指導の実践 ②特別な配慮の必要な生徒への教育相談委員会等による支援体制の活用	①基本的な生活習慣を確立するとともに、生徒指導の実践上の視点を意識して自己指導能力を育成する。 ①生徒の自治的な取組（委員会活動、体育祭・三高祭等の行事、縦割り清掃等）により生徒会活動の活性化に取り組む。 ②SCの助言による定期的な教育相談委員会（年6回）を開催する。 ②学校生活アンケート（年5回）、アセス【学校環境適応感尺度】（年3回）を実施するとともに、高校進学後の生徒指導に活用するため、高校との情報共有を大切にす。	①高校の求める生徒像を確認した上で、中学校の発達段階での目指す生徒像を確認し指導にあたった。 ①あいさつや時間を守る意識など、基本的な生活習慣が身につけていない生徒が増加傾向にあり、公共心が十分でない面も見られるため、生徒指導部を中心に、組織的な指導にあたった。 ①生活向上に向けた様々な活動を、生徒会（各委員会）が工夫して実施するとともに、教師主導の取組と合わせて行うことで日常的な生徒指導の充実に努めた。 ②定期的に教育相談委員会（年6回）、学校生活アンケート（年5回）、アセス【学校環境適応感尺度】（年3回）を実施し、学級担任等が一人で抱え込まないように、生徒指導主事を中心に組織的に対応した。	B	・学校の規律・ルール現状について、生徒と先生方との認識に差があるように思うが、ルールを守ることの意義などを伝えながら、規律ある進学校の実践に結びつけてほしい。	・発達段階を踏まえ、自己指導能力の育成という生徒指導の目標を意識しながら、生徒に考えさせる指導を重視し、基本的な生活習慣及び規律ある学校の確立に努める。 ・今後も教育相談体制の構築に努めるとともに、生徒に寄り添った丁寧な対応を組織的に実践したい。
4	①普通コース及びGSCコースそれぞれの特色を生かした探究型学習の充実と発展 ②外部専門機関等と連携した理数教育及び語学教育の一層の充実	①森林環境学習、中高合同による拡大校内授業研究、高校教諭による中3での先取り学習（英・数）、標準授業時数を越えた授業時間数の確保、総合的な学習の時間における高校教員による探求的な学習、中高協働探究セミナー、GSC発表会（高校）等への参加を行う。 ②語学研修を実施する。 ③各種検定を実施する。（英語検定・数学検定・漢字検定）	①GSC事務局と協力しながら、森林環境学習への高校生の参加、数学・英語での先取り学習、中高協働探究セミナー（大学教授による中学生への授業）、グローバルサイエンスコースの課題研究発表会、テーマ追求成果発表会への中学生の参加などを行った。 ②語学研修として、希望者を対象としてオンライン海外研修（英会話学習、バーチャルスタディツアー、国際交流）、2学年修学旅行での語学研修（TOKYO GLOBAL GATEWAYでの研修）を行った。 ③英語検定では、今年度も、2級、準2級合格者を多数出すことができたが、数学検定や漢字検定の受験者が少ないことが課題である。	A	・高校のGSCの活動と中学校が連携している事例があることがよいと思う。日常生活における交流は発達段階の違いもあり難しいと思われるが、学習活動の場での連携を今年度以上に図ってもらいたい。	・本校が目指す生徒像を意識し、6年間を見通したGSCの計画となるように、見直しと改善を図る。 ・GSCの取組が伝わるように積極的な情報発信を行っていく。
5	①教職公務員としての勤務規律の確保 ②多忙化解消によるワークライフバランス確保	①相談しやすく、働きやすい職場環境への改善 ②会議の精選と資料の電子化に取り組む。 ②部活動の地域展開及び統廃合の検討を継続する。	①些細なことでも職員同士で情報を共有し、組織的に対応した。 ①職員朝会や職員会議等で、管理職から情報提供を行うなどしながら時に応じて勤務規律について注意喚起した。 ②業務の効率化を回り、年次休暇が取得しやすい環境を整備した。 ②部活動の地域展開について、生徒、保護者へ情報提供を行いながら今後も段階的に継続して取り組む。	B	・勤務規律については、引き続き教育公務員としての自覚を促せるようよう、職員会議等で注意喚起を行っていく。 ・部活動については、学校の現状に照らし合わせながら今後も県教育委員会の助言を仰ぎ、地域展開と部活動数の見直しを段階的に推進していく。	

(11) 総括	県内唯一の県立中高一貫校として、中高一貫校ならではの特色ある教育活動の実践を継続してきた。今後も、これまで以上に高校との連携を密にし、本校の目指す生徒像に鑑みながら、適宜見直しを図ることで、積極的な教育活動を展開する。また、校是にもある「規律ある進学校」の土台となる生徒指導を充実させるとともに、「授業第一主義」と家庭学習が連動していくよう指導の工夫改善に努める。
---------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------